

# 八清親和会 自治会役員の一とり言

令和2年3月20日

No18

八清親和会 副会長

吉田祐治

## 八清親和会「三役の役員後継者人選育成システムづくり」の成果が出てきました。

3月は、各自治会とも役員改選で、次期役員人選の真最中かと思えます。

この季節になるといつも決まって思い起こされるのは、昭島自治連活動に於いて、年何回か加盟自治会長が集まる会合で、自治会が直面している問題・課題について取り上げると、いつも同じ内容で繰り返し出てくるのは、

◇自治会三役（会長・副会長・会計）のなり手が少ない、いない

◇自治会三役（会長・副会長・会計）就任の長期化、高齢化

である。

この問題・課題は、八清親和会も例外ではなく、6年前（平成25年）までは、各自治会と同様の問題や課題を抱えていた。その4年前（平成21年）に役員の高齢化と長期化を改善するため、三役全員の「若返り化」を図っていたが、その後後継者の候補探しをしていなかったため、4年後の役員改選で後任役員のなり手が少なく、後任探しや、引き受けのお願いに苦労したことが今でも記憶に新しい。

この教訓をもとに、6年前会長、副会長改選を機会に1年掛けて、八清親和会が抱えている問題・課題を全て調査分析し、その原因となっている本質的な問題・課題は何か、を把握するとともに、これを解決するための「取り組むべきポイント」をまとめ、8つに絞った。

その中の一つ「将来を見据えた活動（八清親和会役員人材の基盤づくり）」として「三役の役員後継者人選育成システムづくり」を上げ、仕組みづくりと人材探し育成に、5年間活動してきた。

主な活動内容は、五つ、

◇役員を最低2期4年以上担ってもらう目標、条件での人材探しを目指し、以下活動を行った

◇役員候補となる人材探しや、育成を兼ねた新たなる組織「イベント・サポート・スタッフ」「本部委員」を設け、そこから役員候補となる人材を探し、行事・活動を通じ役員候補としての経験積んでもらい、役員をお願いする

◇現在ある組織、協力団体「青年部、常任委員、協力団体（子供会の親御さん、神輿の会等）」から行事・活動を通し、役員候補となる人材を探し、「本部委員」をお願いして、経験を積んだ後、三役を担ってもらう

◇常任委員、組長の負担軽減と、スムーズに選出できる輪番体制づくりを行い、1年間の役目から役員候補となる人材を探し、常任委員、組長終了後、「本部委員」をお願いするか、あるいは直接三役を担ってもらう

◇できるだけ、若い人や現職世代に「イベント・サポート・スタッフ」「本部委員」「常任委員、組長」の役を担って貰うため、負担軽減を図る

である。

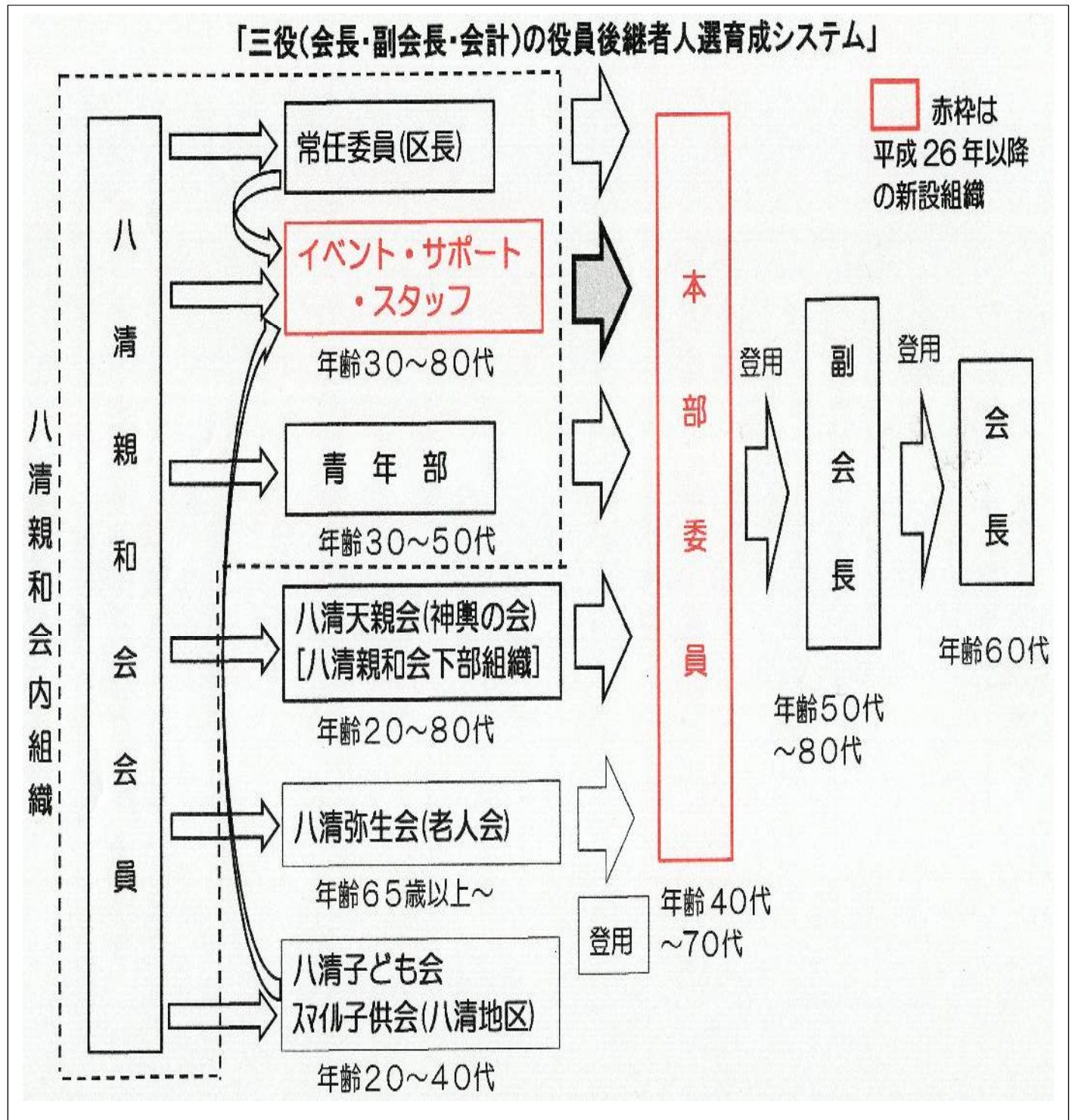
この5年間、これらの活動で「役員後継者の人選育成システムづくり」は着々と進み、今回、次期三役の改選に当たり、大幅な役員・本部委員の入れ替えや、役員を担当負担の軽減、担当変えができた。さらに次の次を見据えた後継者育成も考え、現職世代の副会長・本部委員の増員も行った。

今はまだ内定であるが、4月の定期総会で承認された後、この新三役・本部委員構成で、次年度の八清親和会活動がスタートします。

この「三役の役員後継者の人選システムづくり」も、漸く軌道に乗ったと言えるが、担当、役割に合致した人材確保や、適材適所の担当とは言えず、まだ脆弱である。

先ずは、三役の役員後継者の人選・育成システムづくりは出来た。今後は、担当役割への適材適所の人材探し（PCの習熟者、民間企業の組織、経験、スキル、柔軟な発想を持ち合わせた人材）に力を入れて活動して行く必要がある。このように八清親和会は、独自で役員のみならず、役員の高齢化、高齢化問題。課題を解決しました。

八清親和会の「役員後継者の人選システム」を紹介しますので、同問題・課題を抱えている自治会の皆さん参考にしてください。



以上